

連載小説

まだ遅くない

葉月一郎
え・小西保文

② 灰色の雨



機関車の汽笛が、戸波の眠りを引き裂いた。
短かいが、深い眠り――。

まな板を叩く、規則正しい包丁の音が耳に届く。そして、低く甘い歌声も。

あの朝、あなたはタバコをくわえ
あの朝、ひとりで夢みた私
浮気な女だと、ひとはいうけれど
いいじゃないの、幸せならば

ユカだった。

小ざっぱりした、まるで高校生の着るようなワンピースに着かえている。

歌に耳を傾けていた戸波は、思わず苦笑した。タバコをくわえていたからだ。

気配に気付いたユカが振り返った。

あらずじ 戸波峻は新聞社に入社して十年、神戸支局に転勤してき
てからもう五年になる。歳月の積み重ねとはうらはらに仕事といっ
たら一体なにが残ったのか――どうしようもないいらだちを感じて
いた。そんな彼を支局長の石津が呼びつけ兵庫製鉄に対する公害キ
ャンペーンを命じた。昭和四十五年初秋のことである。支局長と言
い争った彼は暖かい笑顔をみせるゆきつげのバーのホステスユカと
一夜を共にした。ただ無性に生きている証しが欲しかったのだ。

「あら、もうお目ざめ」

暖かい微笑のどこかに、ほのかな媚態を見た。

顔ぐらいい洗おうとユカに近寄る。そっと背後から両肩に手を置く。

「世話になったなあ」

ふっとユカの体が胸に倒れこんできた。全身の体重を預けるように――。

髪のおいが、ひととき前の記憶を呼びもどす。それ

は、まだ熟しきっていない甘酸っぱい果実を思わせた。

小さなうねりが来るたびに、喘いでいたユカ。チロチロと、燃えきらず、消えやらず、そして、最後の大きなうねりのなかばで、まるで息の絶えてしまったような……。

肩から胸へと、背後からの手をずらす。ゆっくりと、強く抱きしめる。

いとしさがこみ上げた。数少なくてはならない行きずりの女たちとの記憶にも、こんな情感はなかった、と戸波は思う。それは、ユカの持っている天性の暖かさが招いたものだろうか。

力を入れた拍子に、ふと左ひじに激痛が走った。思わず低い叫びを上げる。

「どうしたの？」

「う、うむ、ちょっと、痛くて……」

「まあ、やっぱり。……ここ？」

向き直ると、ユカは戸波の左腕をそっと撫でた。

「やっぱりって、君、なにか心当りでも……」

「ほら、ゆうべ布引のサパークラブで、派手な立回り、やったやないの？」

「立回り？」

「まあ、覚えてなかったの？ あんなにモーレツな武勇伝、やったくせに」

あきれたわ、といった表情で、ユカは眼をまるくしている。

最後にたどりついたサパークラブは、午前零時開店という深夜族むけの店で知られている。ゆうべも勤め帰りのホステスや酔客で、かなり混雑していたらしい。

テーブルチャージを、きちんと取る店である。だが、混んでいたためか、男二人、女一人の三人連れの客と相席になった。

トラブルの最初は、その椅子^{いす}をめぐるものだったらしい。ユカが化粧室へ行っている間に、酔った男の一人がユカの椅子を占領して横になってしまったのだ。

「はじめは、あなたも仲々低姿勢やったのよ。椅子をかえしてくれないので、そのままフロアへ私とダンスしに行ったりして……」

戻ってくると、三人の客同士で争いがあった。いや、女客が帰るというのを、なかば力づくで男二人が引き留めていた。

はずみでテーブルクロスが激しく引っぱられ、戸波とユカのグラスが倒れた。琥珀色の水割り、生きもののように碎けて飛んだ。

豹に似た早さで、戸波は男たちに躍りかかっていた。グラスが割れ、女たちの悲鳴も――。

「早く、いまのうちに帰るんだ」

戸波は、その女客にぶつけるようにいうと、男の一人に足払いをかけた。もう一人、あまり酔っていない方の抵抗は激しかった。ふりかざした椅子が、戸波の肘^{ひじ}を襲った。

「あんな戸波さん見たの、はじめて。まるで別の人みたいやったわ」

壁に爪を立てるように、記憶をかき集めてみる。が、どうしても形になってこないのだ。しかし、明らかに左肘に残っている鋭い痛み……。

戸波は苦笑した。おそらく、兵庫製鉄キャンペーンについて支局長といさかい、気まずいまま別れた昼間の胸のしこりが、あるとき爆発するように噴き出したのではなからうか。

「その三人って、どんな奴らだった？」

「そうねえ、あの男たちは、まあ、サラリーマンね。」

女の方は、水商売じゃないわ。どうみても堅気ね」

堅気といったのが自分でおかしくなったのか、ユカは首をすくめて笑った。

「OLっていうのかしら。色が白くて、割りにきれいな人やったわ」

店のボーイが止めに入った。男たちは居づらくなったのか、そのまま出て行く。それより早く、女の方は姿を

消していた。

「あの店、客ダネが落ちたみたい。このごろ、ときどきあんなこと、あるのよ」

ユカはガスレンジに向うと、鍋のフタを取った。みそ汁の甘い香りが漂う。荒れた胃袋の底にまで届きそうな、その暖かさ。また汽笛の鋭い音が聞えた。

「ここ、どの辺になるのかなあ」

「まア、覚えてなかったの？ 国鉄のね、灘駅のすぐ近くよ。貨物列車の音、やかましいでしょ」

汽車か——戸波は窓越しに灰色の空を見た。急に、別居したままの妻の顔が浮んだ。いまごろは金沢の実家で、なにをしているのだろうか。たしか、やがて三年になるはずである。

売りことばに買いこば。

あのととき妻の淳子は、ボーナスの軽さに露骨に不満と不審の表情をみせた。半分以上を飲食街のツケの支払いに当てたあとだった。だから、当然のことかもしれない。

戸波は、しかし説明する気さえ起らなかった。給料や賞与のたびに繰返してきた衝突なのである。

「そんなにカネが欲しかったら、銀行屋の嫁にでもなったら、どうや」

「ええ、ええ、いわれなくても、そうするわよ。今夜にでも出ていくわ」

翌日の夜、五毛天神に近いアパートへ戻ってみると、部屋にひと気はなかった。妻の衣類も靴も、あらかたなくなっていた。

実家に帰る、という簡単な置手紙が一つ。

それ以来、籍は残っているというのに、音沙汰ひとつない。いまはもう、その肉体の記憶さえ、遠い過去へ消え去っているのだ。

（列車の汽笛で女房を思い出すなんて、きょうはどうかしてるなあ）

灰色の空から、秋の雨がこぼれてきた。その水滴も、灰色であった。



神戸地裁の法廷は、特有の冷たさと暗さが漂っている。

ガランとした傍聴席で、戸波はじつと被告をみつめた。堂本俊夫、四十二歳。

住居侵入、威力業務妨害などの罪に問われ、きょうは五年越しの判決公判なのである。

戸波は、いわゆる遊軍記者だ。市役所とか警察、港といった特定の担当場所はない。自分が独自にみつけた、あるいは上司から特に指定された取材をするのが任務である。

新聞社では一般に「遊軍は花形」という意識がある。

しかし、戸波の場合は、少し違うのかもしれない。もう五年も神戸に在任して、たいていのところは担当した。支局長や次長よりも土地に精通しているし、古くて使にくい面もある。そんなところから「遊軍」という、どっちつかずのポストが与えられた、と本人は思っている。

その戸波が、持ち場でもない裁判所の、しかも小さな記事にしかならぬような事件の公判をのぞいてみる気になったのは、なぜなのか。

神戸へ着任して、西神戸の警察を回りはじめたとき、最初につかつたのが堂本被告の事件だった。

「おもろいストライキ、やつとるで。労働組合が工場に立てこもって、勝手に製品つくったり売ったり、まあ生産管理ちゅうやつやな」

酒場で知り合った弁護士に耳打ちされたのがきっかけだった。翌日、その金属工場へ一番に足向けると、ちょうど警察の手入れがあつて、労働組合の幹部が二、三人検挙されるところだった。

ロックアウトをしていた会社側が、組合員たちを住居侵入罪などで訴えたのだ。

それほど珍しい事件ではなかったが、現場写真の迫力もあつて、戸波の記事はかなり大きく掲載された。

堂本は、そのとき組合の書記長だった。結局、彼ひとりが起訴された。

「おれたち記者はなあ、いつもニュースは使い捨て。書きっぱなしで、あとは知らんということが多いやろ。まあ、そんな意味で、おれ、あの事件の判決、見届けたいのや。公判をのぞかしてもらうよ」

戸波は、後輩の裁判所担当記者にこういつて、「あいさつ」した。

「どうぞ。よかつたら、応援させてもらいますよ」
勉強家の後輩は、めがねを光らせた。

「いや、いいんだ。まあ、無罪になれば、ちょっと面白いがね」

五年越しの「長すぎる裁判」である。長いのは、「生産管理」を法廷がどう裁くかについて、慎重になっているせいなのだろうか。

朝からの雨が、小止みなく降り続いていた。堂本被告は、おそらく別の職場へ移っているのだろう、小ざつぱりした背広姿で、窓の雨に眼をやっている。

精悍だった当時の風貌は、予想以上に薄れていた。もみあげのあたりには、もう白いものさえ見える。

五年という歳月の重さを、戸波は被告席に見た。裁判長が入廷した。

静寂——。うつろな緊張が訪れる。

人が、人を裁く。その暴挙を、おおかたの人が当然のことのように受けとめる。それは、この裁判所という「權威に満ちた」建物の中で行なわれる儀式だからなのだろうか。

「堂本被告を無罪とする」

初老の裁判長は、おごそかに宣告した。ガラあきの法廷だったが、それでもさざ波のように小さな感動が走るのを戸波は見届けた。

判決理由の説明がつづく。

生産管理の是非論を避けて、裁判長は会社側をとったロックアウトを非難していた。

(これで、一つ終った)

戸波は、ふと自身自身の心の中にある小さなしこりを

つかんだ気がした。

後輩には、きれいごとの説明だけで、この判決の取材を引き受けた。だが、本心は、もっと別のところにあるのではないか。

（神戸で始めて扱った事件の判決いわば最終結論を、自分の手で書くとする。それは、自分の仕事に対するフィナーレ、つまり終止符を、自分自身の手で打ちたいという気持があつたからだ、とはいえないか）

堂本被告に、特別な感情を持っているわけではない。あの労働事件に、興味をそそられたこともない。

突然のように、判決をこの眼で見定めたくなつた心情の底には、新聞記者という仕事からの訣別が芽生えているのだ。——小さな発見が、思いがけず胸を揺さぶつた。夕刊用に、原稿を電話で支局へ送つた。

できるだけ簡潔に、淡々とまとめたつもりである。

送り終つて電話を切ろうとすると、電話口には代つて支局長が出てきた。

「おう、戸波か。石津や」

相手の神経を無視した太い声。それでいて、どこかに甘さを残した響き。

きのうと変つていないな、と戸波は直感する。

「搜しとったんや。うむ、夕方、支局へ上がつてきてくれ。そう、夕方、五時か六時でいい。頼むよ」

兵庫製鉄のことなら、ご遠慮したい、とクギを刺そうとしたが、すでに電話は切れていた。

毎朝新聞の神戸支局は、三宮の浜手にある。

戸波が雨の中をたどりついたときは、もうネオンの灯が疲れたようにうるんでいた。

会議室には、支局長、次長^{アシタカ}をふくめると、十人近い記者たちが集つていた。なにか新しい仕事をはじめるときに漂う熱気めいたものが、濃厚に立ちこめている。

「キャンペーンというてもな、別にケンカ売るわけやない。公害による被害の実態を、一つ一つ、正確に、冷

静に書いて、読者に読んでもらう。そして、公害工場のあり方を考えてもらう。その線で統一していこうやないか」

きのう、戸波に語りかけたようなことを石津支局長が説明している。

（なんだ。やっぱり兵庫製鉄か）

鼻白む思いで立ちつくす。支局長の強引なやり方に、またも敵意さえわいてくる。

そんな心の中をみすかしたように、石津支局長は目を細めた。

「おう、戸波君、待つとったんや。まあ、すわれよ」自分の横の椅子をアゴで示すと、ことばを続けた。

「取材のスタッフは、君ら七人。まあ、七人の侍^{さむらい}やな。随時応援も出すが、主力はこの特捜班で取組んでくれ。責任は、すべて僕がとる。それから、キャップは戸波君。君にまかせろ」

「しかし、それは……」

なんとということだ。これでは強姦ではないか。こんな荒っぽいことで、むずかしいキャンペーンができるのか。

「疑問も不安もあるやろ。しかし、これは業務命令や」支局長の眼は笑っていた。業務命令だといいながら、口調も柔かい。しかし、そこには有無をいわせぬ意志があつた。テコでも動かぬ意欲が記者たちを包みこんでいた。

ノックがして、受付の少女が顔を出した。

「戸波さん、面会です。堂本さんって人。夕刊に出てる記事のことで、話があるそうですけど……」

（お礼でもいいに來たのかな。ちようどいい。この席から出て、少し考えをまとめよう）

受付へ出る。それより早く堂本が駆け寄つてきた。

「あんた、なんてひどい記事、書いたんや」

激しい視線が戸波を刺す。それは、怒りと恨みに赤く燃えていた。

（つづく）

スナック

阿羅仁

生田区中山手通1丁目81中一東ビル1F
☎391-0865



三宮の雑踏を離れた閑静な山手にスナック「阿羅仁」。(アラジン)がある。重厚さを感じさせる木による店の造りは落ち着いた雰囲気をもたらし、ゆったりとくつろげる。カウンターの正面は、くすんだレンガ造りの洋酒棚。奥にはアンティークな大時計が……。阿羅仁の自慢は熱物が出せること。湯豆腐(500円)、うどん(500円)、そば(500円)などこれからの季節にピッタリ。秋の夜、手づくりの熱物を食しながらグラスを傾けてみてはいかがですか。

ボトル ¥6000、水割り(オールド) ¥450

ビール ¥350、つき出し ¥300

営業時間 6:00PM~2:00AM 日曜日休み



DRINKING

スナック

シャム

生田区北長狭通2丁目(サンセット通山側)
洋酒天国傍 ☎331-7641

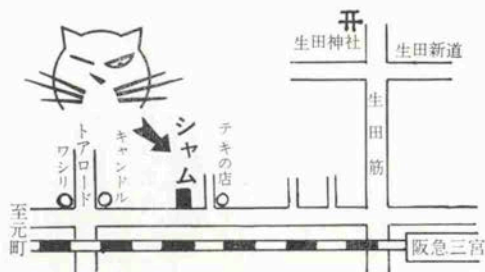


軽い音楽と白い壁が印象的なお店、それがスナック「シャム」です。階段を下りるとそこは「シャム」のステキなスペース。カウンターの前に腰をかける、鏡の前の洋酒棚がにぶく輝き、シャレた置物とともに、イキナ店だなあと感じられます。奥にはこじんまりとしたボックス席もありますのでグループでくつろげる向きに便利です。一度こられたら、きっと、シャム猫のようにキュートな女性のとりこになります。

ボトル ¥6000、水割り(オールド) ¥450

ビール ¥350、つき出し ¥300

営業時間 6:00PM~1:00AM 日曜日休み



曲線ハイウェイ

武田 繁 太郎
え・横 塚 繁



「なにがはいってるんだ？」

多木は、英子がロッカーにはあずけられないといったそのスーツケースをのぞきこみながらたずねた。

「さあ。なんだと思う？」

（あらすじ） 東名高速サービスエリアで多木洋介は神戸の女性宇津康子と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある

日友人岡本和彦と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山ヘドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じるいとおさがつり、その夜二人は愛しあう別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のように去っていった康子を追い神戸にきた多木の多木は、岡本の早谷み込みと神戸の雲間気の中で英子を探している自分に気付いた。英子をみつめた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそって歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの屈託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかった象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

島牧についた二人は、花子を見舞い花子の世話をしているS氏と親しくなった。S氏を招いて夕食を共にし、動物談議から愛と性へと話は発展した。二泊して二人は帰京した。帰京した多木に英子から電話があり、東京へ遊びに行くという。OKした多木は、新幹線東京駅まで出迎えた。

「なんだろう」

「当ててごらんさい」

「そうだな。あんまり重そうでもないし、かさばるものでもなさそうだし、そういうものだ、なにかかな？」

とっさには、ちよつと見当がつかかねた。

「食べるものよ」

「じゃ、神戸のうまいケーキ？」

「ちがう。教えましょうか」

「うむ」

「お肉なのよ」

これは、思いがけなかった。

「じつはね、ホテルじゃなく、あなたのところに泊めていただくのなら、今夜は、あなたのお部屋で食事したいと思ったのよ」

「そうか。そりゃいい」

「それで、スキヤキにしたいと思って、神戸をたつとき、元町のOってお店から買ってきたのよ」

なるほど、今夜のスキヤキ用の牛肉のはいったスーツケースを、東京駅のロッカーなどにはあずけられないはずだった。

「ひさしぶりに、うまいコウベビーフにお目にかかれるな」

多木は、うきうきした声で言った。思いがけなかったが、これ以上すてきな土産はなかった。若い身で、そういう土産を思いつくこの娘に、彼は内心「まいった」という思いがした。

二人は、東京駅から中央線で荻窪駅におりて、駅前のマーケットによった。まだ買物の主婦たちでこみあっているなかを、白いスーツ姿の英子は、まるで通い慣れた地元のマーケットにでもきたように、八百屋によったり、乾物屋によったりして、スキヤキの材料を買いととのえた。多木は、ただ彼女のあとを歩いて歩いているだけだった。

英子は、魚屋のまえでも立ちどまり、人垣のあいだから、もの珍しそうに売店にならんでいる魚をのぞきこんでいた。

「魚の種類は多いけれど、みんなふるいわね。東京の人たち、こんなお魚をたべさせられて、かわいそうだよ」

瀬戸海の新鮮な魚を見られた目には、東京の魚は、魚の残骸のようにみえるのかも知れなかった。

「多木さん。おうちに日本酒と味噌ある？」

酒屋のまえまできたとき、英子は、たずねた。

「いや。ぼくは日本酒は呑まないの、ないな。味噌もないな」

「じゃ、買っておくわ」

英子は、カン入りの清酒とプラスチックの容器にはいった味噌を買った。

二人は、大きな紙袋をかかえて、多木のコーポにもどっていった。多木の部屋は二階にあった。英子は、なかにはいるなり、部屋じゅうをみまわし、感心したように言った。

「まあ。とってもきれいにかたづいてるのね。女のあたしの部屋よりきれい」

「いつもは、こうじゃないさ。半日がかりで大掃除したんだ。お客を迎えるには、まずこうして部屋をきれいにしておくのがエチケットだと思ってね」

多木は照れながらも、正直に白状した。

「歓迎していただいて、ありがとう。あたし、すぐに夕食の支度するわ。着換えに、あなたの寝室かしてね」

英子は、スーツケースから牛肉の包みをとりだして、台所の調理台におくと、スーツケースを持って多木の八帖の居間にはいつていった。

てきぱきとした動きである。多木は、ダイニング・キッチン椅子に坐わりこんだまま、英子の言うまま、彼女に夕食の支度をさせる気になっていた。

英子は、スーツをブラウスとミニの軽装に着換えて、八帖の居間からでてきた。エプロンまで持ってきていた。

「おなか、すいであれしょう。スキヤキは準備がかんたんだから、すぐできるわ。ちょっと待っててね」

英子は台所にはいつていった。

「えーと」

と言いながら、彼女は、流し台や食器棚など、あちこちをながめていたが、すぐ、どこになにかあるか、おおよその見当がついたらしく、紙袋からスキヤキの材料をだして、調理台のうえにならべた。

「なにか手伝おうか」

多木は声をかけたが、

「いいわ。あなたはそこに坐わっていらっしやい」

英子は、流し台で葱を洗いながら言った。どちらが客か、多木にはわからなくなった。葱を切り豆腐を切り、白たきを湯にとおし、スキヤキの準備は十分もかからなかった。

「いまのうちに、ごはん、たいておくわ。お米、どこにあるの？」

「その食器棚の下にあるよ」

「ああ。わかったわ」

英子は、米をとき、電気釜にいれて、点火した。

「ここには、スキヤキの鍋はなさそうね」

「ないな」

「じゃ、フライパンでもいいわ」

ダイニング・キッチンテーブルにガスコンロをお



き、そのうえにフライパンをおいた。コンロのまわりに、牛肉をならべた皿や、野菜の類、調味料などがぎやかにならべられた。

「君、うちでいつも台所仕事をやってるのかい？」

多木は、英子のその手ぎわのあざやかさにみほれたようにして言った。

「いつもでもないわ。たまに、母の手伝いをする程度よ」
おそらく、英子の母親がこうしてきびきびと動く人なのであろう。娘は自然と母親を見ならうものである。「娘は、その母親をみて貰え」という古い諺のあったのを、多木は思い出していた。

「さあ。お待ちどうさま、スキヤキ・パーティー、はじめましょうよ」

英子も、多木と向いあつて坐わり、エプロンをはずした。

「君、なに呑む？」

「あなたは？」

「スキヤキなら日本酒といきたいところだが、ぼくはやっぱり水割りが性にあっている」

「じゃ、あたしも水割り」

酒の支度だけは、多木がやることにした。ウイスキーと水と水を自分で運んできて、水割りをつくって、英子にすすめた。

「じゃ、君の上京を歓迎して、乾盃」

「ありがとう」

二人は、グラスをあわせた。

二人だけのスキヤキ・パーティーがはじまった。英子はフライパンを牛肉の脂身でゆつくりと焼き、肉と具をいれて、味つけに酒や味醂も加えていった。なれた手つきである。

「やっぱり、牛肉の本場の人は、うまいもんだな」

多木は、水割りを呑みながら、もっぱら見物役にまわっていた。

牛のやける香ばしい匂いがたちはじめた。英子のやき

〈神戸の催し物11月ご案内〉

〈音楽〉

- ★アリスリサイタル
11月3日(祝) PM1:00~ 神戸文化ホール S ¥1,000
(指定席) A ¥600 (自由席)
- ★渋谷のり子ロングリサイタル
11月5日(月) PM6:30~8:30 神戸国際会館 民音
¥1,000
- ★あなたと私の音楽会
11月6日(火) 開場 PM5:30 開演 PM6:00 神戸文化ホ
ール 前売券 ¥700 当日券 ¥900
- ★三波 春夫ショー
11月7日(水) ①PM1:00~ ②PM6:00~ 神戸国際
会館 A ¥2,000 B ¥1,500 C ¥1,000
- ★デュークエイセス—18周年記念リサイタル
11月7日(水) PM6:30~ 神戸文
化ホール A ¥1,500 B ¥1,000
S ¥2,000 (全館指定席)
- ★マランド楽団
11月8日(木) PM6:30~8:30
神戸国際会館 A ¥2,400 B ¥2,000
C ¥1,700
- ★兵庫県音楽祭
11月11日(日) PM1:00~4:00
神戸国際会館 ¥300
- ★レイ・チャールズ
11月16日(金) PM6:30~8:30
神戸国際会館 民音 A ¥2,200 B ¥1,700
- ★布施 明リサイタル
11月20日(火) PM6:00 神戸国際会館 労音
- ★天地真理神戸初公演—幸福に向けて
11月23日(祝) ①AM11:30~ ②PM2:30~ 神戸文
化ホール A ¥2,200 B ¥1,500 C ¥1,000 特別席 ¥2,500
(全館指定席)
- ★神戸大学軽音楽部定期演奏会
11月24日(土) PM5:00~8:00 神戸国際会館 ¥400
- ★奥村チヨ・仲雅美ジョイントコンサート
11月25日(日) PM2:00~4:00 神戸国際会館 民音
- ★泉谷しげる・西岡タカシコンサート
11月25日(日) PM7:00~9:00 神戸国際会館 民音 ¥800
- ★スリー・ドッグ・ナイト神戸公演
11月29日(木) PM6:30~8:30 神戸国際会館
- 〈演劇〉
- ★子どもの劇場—3匹の子ぶた—
11月17日(土) ①AM11:00~12:40 ②PM2:00~3:40
神戸国際会館 A ¥700 B ¥500 C ¥400
- 〈その他〉
- ★'73兵庫県文化賞フェスティバル
11月3日(土) PM1:00~4:00 神戸国際会館 整理券
- ★若由会日本舞踊公演
11月4日(日) AM10:30~PM9:00 神戸国際会館 ¥1,500
- ★花隈おどり
11月10日(土) ①PM1:00~4:00 ②PM4:30~7:30
神戸国際会館 ¥1,800
- ★藤兎会日本舞踊公演
11月18日(日) AM10:30~PM9:00 神戸国際会館 ¥1,000
- ★お笑い大行進
11月19日(月) ①正午~ ②PM2:00~ 神戸国際会館
整理券 主催/朝日放送
- ★関西オリジナルパレソシエテ・劇団テアトロパン合同公演
11月23日(金) ①AM12:30~PM2:30 ②PM4:30~
PM6:30 神戸国際会館



天地真理

方は東京風のように割り下を使わないのが、多木には珍しかった。

「さあ。この辺、もう煮えてきたわ」

英子は、ほどよく焼けた肉や具を多木のほうによせながら言った。

「よし。たべるぞ」

待ちかまえていたように、多木は割りほぐした卵のなかに、大きな肉の切れをいれて、ひと口に頬ばった。

「こりゃ、うまい！」

思わず、多木は、感嘆の声をあげていた。

「味加減どお？」

「いいよ」

うなづくと、あとは、ものも言わずに、たてつづけに、幾切れかの肉をむさぼるようにたべていった。彼は、水割りや呑むのも忘れていた。

「うまい。こんなうまいスキヤキは、はじめてだよ」

「そう。よかった。わざわざ神戸からお肉を持ってきた甲斐があったわ」

「肉もとびきり上等なんだろうが、焼き方もうまいんだな」

「うまいっていえば、神戸の人たちは、スキヤキを食べつけているから、みんな上手かも知れないわね。神戸では、むかしから『芝居の外題につまったら忠臣蔵、晩のおかずにつまったらスキヤキ』っていつてたほど、みんなスキヤキが好きだったのよ。もつとも、いまはそんなに気軽に食べられなくなっているけど」

言いながら、英子は、こまめに箸を使って、肉や具をやきつづけていた。

「なんだ。ほくばかり食べて君はちつとも食べてないじゃないか。君も食べるよ」

「いいのよ。そんなこと気にしないで。ほら。この辺、もういいわよ」

英子は、多木がうまそうに食べているのを見ながら、れしくてならぬようであった。

多木はふと、亡くなった母親がいつもこんなふうにな、彼がよるこびそな料理をつくって食べさせてくれたことを思い出した。

もう何年ぶりだろうか。忘れていた家庭のほのぼのとしたあたたかさが多木の孤独な心によみがえってくるようであった。

「つづく」

神戸のうまいもん&ドリンクینگ

★日本料理

阿なご寿司 青 辰
神戸市生田区元町通3-184
TEL 331-3435

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市生田区旗塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれない
三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494

かつばう 花くま
神戸市生田区花岡町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび 悟味西
お茶漬・如ばた
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび ふる里
鍋もの
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼 たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷

★西洋料理

レストラン アポロン
ティーバーラー
神戸市生田区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 鹿皮〈あらかわ〉
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通2丁目98/99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

メキシコ小料理亭 ティファレーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F
TEL 242-0043

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル きゃんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン キングスアームス
神戸市生田区磯辺通4-61
TEL 221-3774

居酒屋 風れすたらん 井戸のある家
生田新道新世紀南
TEL 331-5664

レストラン ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331-9554

串かつ店 和蘭陀屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

グリル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

イタリア料理 ドンナロイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 331-7158

レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピッツアハウス ピノッキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スバゲティ ガルの店
三宮区琴緒町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

レストラン ミリオナークラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231-9393-5
メンバーズ 221-1162

フアメンコの店 エル・ヴィノ
神戸市生田区北野町3丁目48 アニルドマンション1F
TEL 241-1344

フオーグ ウェスタン ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

★喫茶 宮水 ーにむら珈琲店
中山手店 神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店 神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

modern Jazz & Coffee さりげなく
生田区北長狭2-22 TEL 331-9762

喫茶・レストラン パロン
神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758
トアロード店 TEL 391-1210

喫茶 ガーディニア
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲 モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98 グランドマンション1F
TEL 241-3961

★club くらぶ 阿以子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069

c l u b 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

エドワーズ倶楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

c l u b 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

c l u b さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120

クラブ 佐久間
神戸市生田区東門筋ビュスタウンビル3F
TEL 321-2226-7

クラブ 千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

洋酒 肆 仏蘭西屋
三宮生田新道相互タクシー北入
TEL 331-0230

c l u b なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

c l u b 蔭くき
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

c l u b ぶーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

c l u b Moon Light
BAR TEL 331-0886・391-2696
Club TEL 331-0157

クラブ くらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

クラブ 佐久間
神戸市生田区下山手通1丁目5 セウスタウンビル3F
TEL 321-2226-7

★STAND & SNACK スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6 相互タクシー横
TEL 331-1100・331-6600

スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

SNACK MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32ノ3
曾根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ サヴァン
高梁山側 テキの店北
TEL 331-2615

スタンド さりげなく
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入 TEL 331-3714

洋酒ハウス 雑貨屋
神戸市生田区下山手通2丁目
PHONE 078-321-0860

スナック ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331-3575

スナック シーザー
生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331-1429

洋酒の店 キャンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010

スーパ&パン店 キャンティ北店
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK スネカジリッ子
神戸市生田区下山手通2丁目
水見ビルB1 TEL 391-8708

Stand&Snack サントノール
生田区下山手通2丁目トアロード
TEL 391-3822

素舌洞 でっさん
神戸市生田区北長狭通1丁目源平寿司3階
TEL 331-6778

STAND アトラス
生田区中山手通1丁目95
TEL 331-5433

バイキング風居酒屋 ゴックスタッド〈GOKSTAD〉
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

スナック GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

SNACK 山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F TEL 221-3637

淳子の店 娑 (SARA) 羅
生田区中山手1丁目91
TEL 391-1647

サロン アルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ1F-B TEL (231) 3300

スペイン風 薔薇園
生田区東門筋東門ヴィレッジB1
TEL 331-0708

snack MORE MORE
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 391-4162

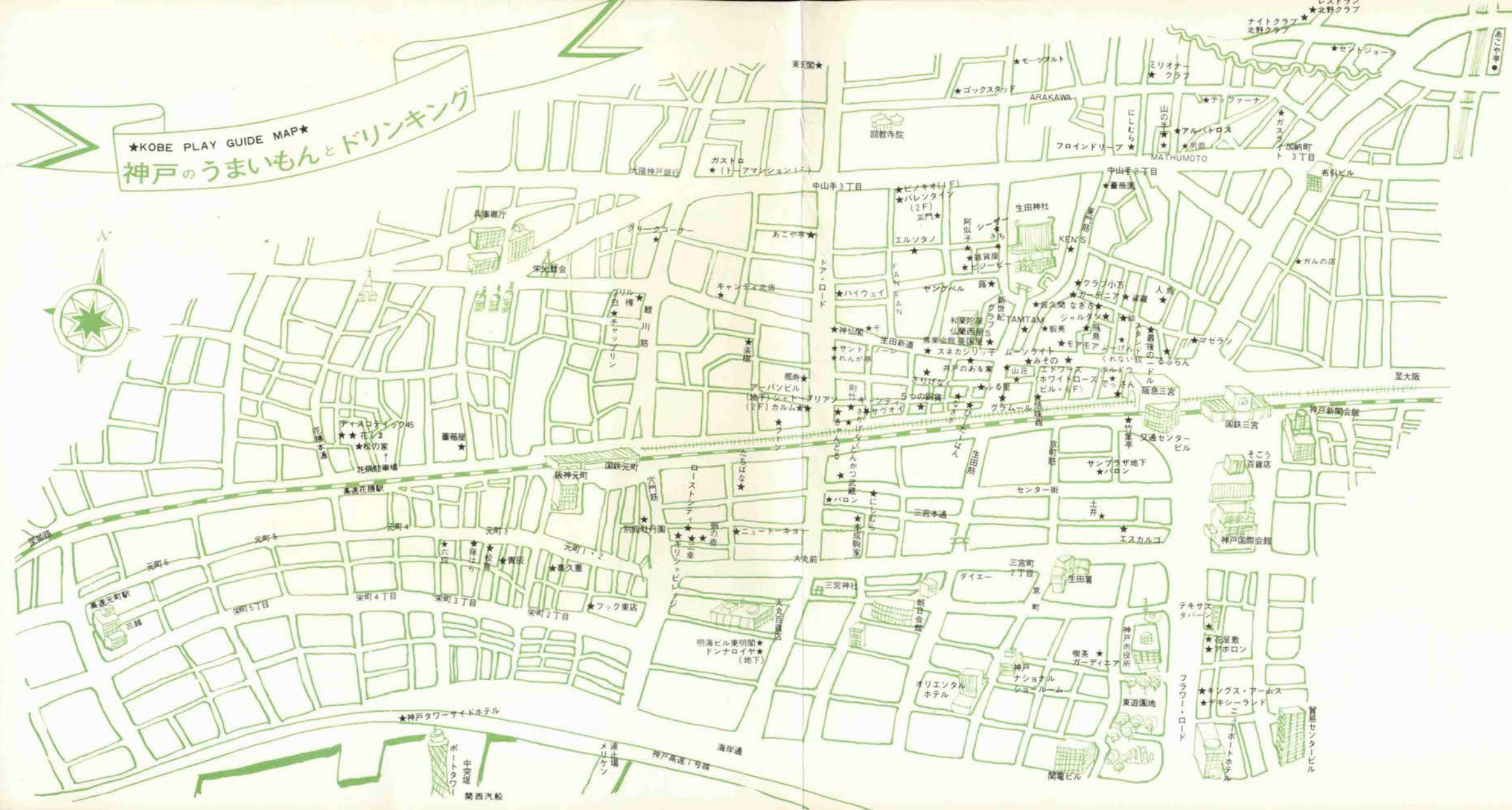
スナック 山荘
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

SNACK & DRINK ガスライト
神戸市生田区加納町3丁目1番地61
TEL 241-7724

スタンド 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋
TEL 331-8858

★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング



あさひビル

★セントジョージ
★北野クラブ

★ナイトクラブ
★北野クラブ

★ミリオナー
★クラブ

★モーツァルト

★ゴックスタッド

ARAKAWA

★ティファニー

★アルバトロス

★ガストロ

★加納町

ト 3丁目

★フロイドリブ

MATHUMOTO

★にしむら

★山の手

★生田神社

★KEN'S

★クラブ小石

★カーデニア

★佐久間 なさき

★ジャルダン

★タム

★モモア

★ホルド

★高急三宮

★交通センタービル

★サンプラザ地下

★パロン

★土井

★エスカルゴ

★三宮本通

★センター街

★生田署

★ダイエー

★三宮町

★神戸市役所

★喫茶

★ガーデン

★神戸市役所

★東遊園地

★オリエンタル

★ホテル

★関電ビル

★フラワー・ロード

★キングス・アームズ

★デキシランド

★ポートホテル

★貿易センタービル

★至大阪

★国鉄三宮

★神戸新聞会館

★セゴウ百貨店

★神戸新聞会館

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

★三宮

balcon antique series

XV 土人

生活にじむ美しさ

小林政夫

〈カメラマン・三友光房〉

「撮影のためによく旅にでますが、ニューギニアとか、グアム、アフリカなどで、生活のために考えだして作り、毎日毎日使いこんだ土人の日常品になんともいえない美しさと味を感じて、足で探したり、もらってきたり……。

そんな名もないガラクタをあつめてぼくの生活の中にとけこませては楽しんでいるんですよ」

カメラ／藤原保之



バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄

ジャガーのある店



The
check

高級レストラン

神戸店 オープン

諏訪山ゴルフセンター レストハウス内



おなじみの高級レストラン「ザ・チェック」が神戸にやってまいりました
落ちついた雰囲気です炭焼料理をどうぞ……

リラックスしていただけるバーカウンターもございます
ゴルフ練習のあとはカフェテラスでリフレッシュ——

高級レストラン「ザ・チェック」神戸店

神戸市生田区山本通5丁目6（相楽園山側） ☎ 078 (351) 3522 ● 専用駐車場(10台)完備



ミナトを見晴らすデラックス練習場

諏訪山ゴルフセンター

「広々とした空間」
 これが心理学的に現代人の心を休ませて呉れる唯一の物かも知れない。それを満足させて呉れる上に尚且つ細やかに行届いたセンス、料理は勿論、一杯のコーヒーを味ふ心にさせ、その器に至るまで「ゆとり」を感じさせる。私は料理を味ふのは勿論だが、この「ゆとり」を味わいに通ってみるのかも知れない。

大森 駿一郎
 (大森内科小児科院長)

大森氏・英子夫人・元君



プルネールの自慢料理は、召し上がる方のお好みのワインによって調理する煮込み料理です。今宵は、アヒルのシャンパン蒸し煮とアヒルの煮込みプロバンス風を御賞味いただいております。御料理に使いました残りのワインはそのまま楽しんでいただけます。

西宮市二見町9番20号(国鉄甲子園口北100m) P H O N E (0798)66-0052

12:00A.M.~10:00P.M. 月曜日定休



まいしょっぷ nov.

水を打った石敷の
小径を歩き、緑の中の
引戸をあけると檜の香
りがすがすがしい。

天井に檜の
みがき小丸太を連ね、
壁も檜の板張り……。
波さの内にも自然の
やすらぎがある。

うなぎ料理「明石屋」(明石)▶
施工/入船株式会社
担当/坂根時男



いんてりあ かりん

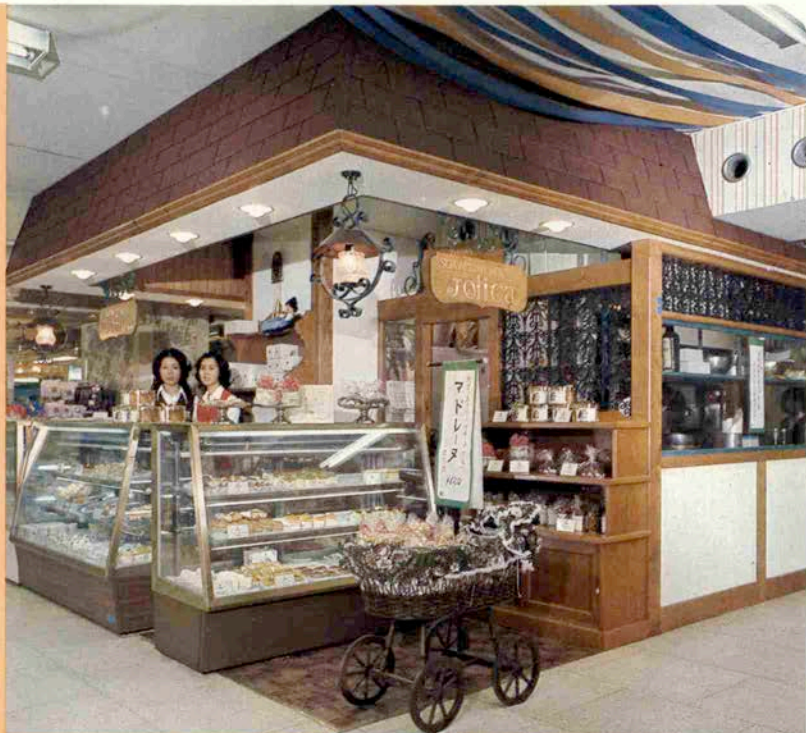
企画・設計・施工のオールマイティ

▼入船株式会社 TEL (078)851-3191

神戸市灘区友田町5-2-2(グランド六甲ボウル1・2F)

ジョリカが

より大きく、より楽しい
店になりました。
くつろいでいただける
喫茶室も用意して
お待ちしております。



ウィーンケーキ
SCHÖNBRUNN DER
Jolica

神戸大丸百貨店地下一階





DRINK & SNACK
スネカジリy子

生田区下山手通 2 丁目 30

永晃ビル地階

☎ 391-8708



コーヒー&スナック

落 ^{FUKI}

六甲くみあいマーケット横

金沢ビル 2 階

☎ 821-2933

KOBE DRINKING GUIDE

スタンド 紋

生田区北長狭通 1 丁目

41-1 レンガ筋

☎ 331-8858



restaurant
ダリア

三宮ビル南館地下 1 階

(そごう別館)

☎ 251-7808



★愉快な仲間の集まる愉快なお店。それが“スネカジリッ子”です。秋も一段と深くなり、肌寒い日が続くようになりました。カサコソと散る枯葉に思わずブルッと震えるようにもなりました。そんなとき“スネカジリッ子”のあの暖かさが急に懐しくなるのです。何はともあれ……。そうです、何はともあれ足は“スネカジリッ子”へ向けなくっちゃ。カウンターに肘をついてホッと一息。ウン、やっぱり来てよかった——。奥のボックス席に陣取るのも落ち着いていいけれど、今日は店の陽気な連中とダべることによし。

☆水割G&G ¥300 ビール(小) ¥250 おつまみ ¥100

ピッツア ¥350 ミニチュアピン(W) ¥500

5:30 P.M. ~ 1:00 A.M. 第1・第3月曜日休み



スネカジリッ子

いつも

きさくな雰囲気で

歌って 踊って

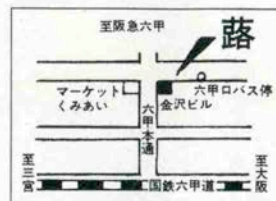
陽気に 楽しく

くつろげるお店

それが

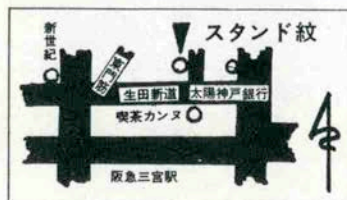
落なのです

6:00 P.M. ~ 12:00 A.M. 日曜日休み



落

KOBE
DRINKING
GUIDE



スタンド“紋”

ダリア



★レンガ筋という個性のある道に、これまた個性のあるスタンド“紋”があります。生田新道山側を東へ歩いて、レンガ筋をチョット入った左側です。重厚な感じの扉を引くと、発らつとしたステキな女性の笑顔があなたを迎えてくれます。この秋、より個性ある魅力的な店に、ということで、メンバーもグンと充実しました。ひとりで飲むよりは、さわやかな感じの女性との軽いおしゃべりを楽しみながらの方がズツとまくなるといふもの。外はそろそろ枯葉の季節。しかし、スタンド“紋”はいつも春の和やかさなのです。

☆フィズ ¥400 ビール(中) ¥400

6:00 P.M. ~ 1:00 A.M. 第2・第4日曜日休み

★シックなムードとシャレた料理のレストラン“ダリア”。三宮ビル南館地階にあり、そごうの駐車場が利用できるので便利。ダリアの自慢はディナータイムの本格的フランス料理。パリで本場のフランス料理を勉強したチーフによって調理されたその味には定評がある。また、フランス料理についての色々な話を聞くこともできるので楽しい。洗練されたパリの味を一人でも多くの人に味わってもらうため常に味の研鑽に励んでいる。豊富なメニューのなかでも、エスカルゴ(カタツムリ)、グリュニユ(食用蛙)、ソール(舌ひらめ)のムニエルなどオツなものである。ドリンク時にはステキなマスコットガールがお相手をしてくれる。
☆エスカルゴ ¥800、肉類の煮込み ¥800 グリュニユ ¥600~650
11:00 A.M. ~ 9:00 P.M. (ディナータイム 5:00 P.M. ~)
木曜日休み